石碑・石仏見学会「青菅の石碑・石仏に出会う」

日時　　2018 年 10 月 27 日(土)　9:30 ～ 12:00

見学場所　　山万ユーカリが丘線中学校駅から青菅地区の寺社・路傍

１．石碑・石仏の所在地図

見学ルート：山万ユーカリが丘線中学校駅集合⇒①青菅ユーカリが丘霊園前⇒②青菅の大塚（青菅小）⇒③青菅道祖神⇒④青菅梵天塚⇒⑤青菅正福寺⇒⑥青菅分校跡⇒⑦青菅稲荷神社近くの道標⇒⑧青菅稲荷神社⇒山万ユーカリが丘線中学校駅解散

２．今日出合う石碑・石仏　　番号①②・・・⑧は上記石碑・石仏の所在地図の番号です。

①青菅ユーカリが丘霊園前

・馬頭観音（天保 9 年(1838 年））　・・・・・・・・・・・・　写真 No1

②青菅の大塚（青菅小）

・月読尊碑

③青菅道祖神

・道祖神（明治 35 年）　・・・・・・・・・・・・・・・・・　写真 No5

④青菅梵天塚

・出羽三山碑　9 基（安永 9 年(1780 年)～平成 5 年）

・道祖神　4 基（寛政 9 年(1797 年)～明治 35 年)

⑤青菅正福寺

・十九夜塔　12 基（享保 14 年(1729 年)～昭和 11 年）・・・　写真 No2

・石灯篭（万延元年(1860 年) ）

・秩父参拝碑（昭和 30 年）・・・・・・・・・・・・・・・・・　写真 No4

・小島泰堂一族の墓

⑥青菅分校跡

・二十三夜塔兼道標（明治 32 年）

・馬頭観音 2 基（寛保 4 年(1744 年)、明治 38 年）　・・・・　写真 No1

・庚申塔　6 基（寛延 3 年(1750 年)～明治 30 年）　・・・・　写真 No3

・遷仏遷座記念（昭和 52 年）

・道標（大正 8 年）

⑦青菅稲荷神社近くの道標

・道標（大正 8 年）

⑧青菅稲荷神社

・角柱（安政 3 年(1856 年)　）

・石灯篭（明治 31 年）

・手洗石　2 基（天保 10 年(1839 年)　）

・稲荷神　子安塔　疱瘡神（安政 2 年(1773 年)～明治 37 年）

・八坂神社石祠　愛宕神社石祠　牛頭神社石祠（昭和 47 年）

３．石碑・石仏のお話

以下の記述は概要を知って頂くためのものであり、正確さに欠けている部分があります。

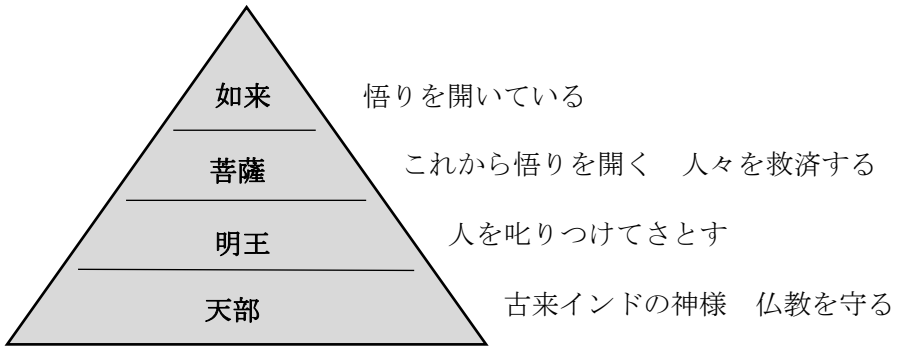
（１）キーワード

（A）神仏習合　神仏分離令

（B）講

（２）仏像の種類

仏像の種類は 4 種類。ランクがある。



（３）近くにある石碑・石仏

分類	名称	本尊	摘要	講	文字 or 刻像		写真
					文字	刻像	No
仏像	地蔵菩薩	地蔵菩薩				○	
	馬頭観音	馬頭観音	（注１）		○	○	1
月待塔他	十九夜塔	如意輪観音	旧暦 19 日。女人講	○	○	○	2
	庚申塔	青面金剛他	60 日毎。（注 2）	○	○	○	3
巡拝塔他	秩父参拝碑		秩父三十四箇所	○	○		4
	出羽三山碑		月山、湯殿山、羽黒山	○	○		
神塔	道祖神		道端の神		○	○	5
	疱瘡神		疱瘡除け		○		
その他	灯篭				○		
	道標				○		
	記念碑				○		

（注 1）　馬頭観音：本来は衆生を救済する仏。のちに馬頭にちなんで牛馬を守る仏。
馬頭観音塔は牛馬の供養塔となる。

（注 2）　庚申塔：庚申信仰による。十干十二支の一つ庚申の夜に睡眠すると体内の三匹の虫が逃げ出してその人の罪を天帝に告げるといい、虫が逃げ出さぬよう徹夜する風習があった。

４．石碑・石仏の写真

No	名称	場所	建立年	写真	摘要
1	馬頭観音	青菅分校跡	寛保４年(1744 年)		刻像塔 像容は馬頭観音
		青菅ユーカリ霊園前	天保９年(1838 年)		文字塔 「馬頭観世音」の文字が刻まれている。
2	十九夜塔	青菅正福寺	宝暦２年(1752 年)		刻像塔 像容は如意輪観音
3	庚申塔	青菅分校跡	寛延３年(1750 年)		刻像塔 像容は青面金剛。 下部に「見ざる聞かざる言わざる」の三猿が彫られている。

No	名称	場所	建立年	写真	摘要
3 続き	庚申塔 続き	青菅分校跡	明治 30 年		文字塔 本尊「青面金剛」の文字が彫られている。
		青菅分校跡	引化 5 年 (1848 年)		文字塔 「庚申塔」の文字が彫られている。 下部に三猿が彫られている。
4	秩父 参拝塔	青菅 正福寺	昭和 30 年		「秩父三十四番」の文字が彫られている。
5	道祖神	青菅	明治 35 年		文字塔 「道祖神」の文字が彫られている。

Rev06